

令和7年度 学校経営方針

丹波篠山市立今田中学校

【校訓】

鍛えよう 考えよう 手をつなぎあおう

【学校教育目標】

主体的に学び 自己実現に向かう ころ豊かな生徒の育成

～ 「学ぶ意欲」 「学ぶ姿勢」 「学ぶ喜び」 ～

「主体的に学ぶ」とは

興味や関心を持って学び、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み「学びに向かう態度」を大切にするとともに自らの学習を振り返り、次に生かすこと。指導者は、学びたくなるようなしかけをする。

「自己実現」とは

目標や夢を持ち、その実現に向けて具体的に努力することによって、自らの幸福な人生を創り出していくための力や態度を身につけること。社会的・職業的自立に向かう意欲を持つこと。

「ころ豊か」とは

失敗を恐れずにチャレンジする心、困難なことにもくじけない強い心、他者とコミュニケーションをとりながら互いの良さを生かして協働する心を持つこと。

【学校経営の基本方針】 ～すべては「信頼関係」から～

生命及び人権尊重の精神を基盤に、生徒・保護者・地域との信頼関係、さらに教職員相互の信頼関係があつて、はじめて学校教育目標は実現できる。その信頼関係はお互いへの「敬意」「対話」「行動」によって築かれる。

①第4期「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」および令和7年度「丹波篠山の教育」に基づいた教育活動を推進する。

兵庫県の基本理念「兵庫が育む ころ豊かで自立する人づくり」、丹波篠山市の教育理念「一人一人が光り輝き、生きがいをめざす」のもと、「生徒が自ら学び、地域とともにある学校づくり」を目指した教育活動を展開する。

②組織的できめ細かな生徒指導体制を確立し、いじめや不登校の未然防止・早期対応を徹底する。また情報モラル教育を保護者や関係機関と連携して推進する。

すべての生徒をすべての教職員で育成するため、情報交換を密にしながら、組織的な生徒指導（共通理解・共通実践）を徹底する。また、情報モラル教育を計画的に進めるとともに、相談できる力の育成に向けて教育相談をさらに充実させ、人間的なふれあいに基づいた、生徒の心に寄りそう生徒指導を推進する。

③「わかる授業」「達成感のある授業」を展開し、学ぶ喜びが味わえる学校づくりを進める。

I C T機器を活用しながら、「学び合う活動」を充実し、自分の考えを堂々と発表できる「表現力」「発信力」を育成する。基礎・基本の力を伸ばすために、家庭学習の課題を工夫するとともに個別最適な学びの実現に向けて、生徒ひとりひとりに適した学習方法を指導する。

④地域や保護者と連携しながら、事故やけがのない安全な学校づくりを進める。

学校運営協議会や地域住民、保護者の協力体制のもと、教職員の下校指導、安全点検を徹底する。また、授業や訓練を通じて、生徒に「危機回避能力」を培う。

⑤丹波篠山の自然・文化・人を活用したふるさと教育に積極的に取り組むことで、郷土に対する誇りと愛情を育み、地域貢献への意欲を高める。

丹波篠山の自然・文化・人に学ぶことによって、ふるさと今田への愛情と誇りを育み、ボランティア活動を通して、地域に貢献する態度と意欲を育てる。コミュニティスクール事業を通して、地域とともにある学校づくりを推進する。

【目指す生徒像】

「学ぶ意欲」「学ぶ姿勢」「学ぶ喜び」を持つ生徒 ～認めて伸ばす！～

- ・「学ぶ意欲」：目標や夢を持ち、その実現に向けて具体的・計画的に努力ができる生徒
- ・「学ぶ姿勢」：授業を大切にし、あたり前のことがあたり前にできる生徒（授業規律・あいさつ・清掃・時間）
- ・「学ぶ喜び」：学びの中で自分の成長を実感し、互いに意見や考えを出し合い、ともに伸びようとする生徒

【目指す学校像】

- 生徒が自らの生き方を真剣に考え、夢や目標を持っていきいきと生活できる学校
（信頼できる仲間や教職員に囲まれ、夢や目標に向かって挑戦し、成長と自己存在感を実感することができ、自分の力を存分に発揮できる学校）
- 生徒の健康や安全を守り、危機に的確に対応し、自己安全管理ができる生徒を育てる学校
（安全で安心な学校、信頼できる教職員がいる学校、わが子の力を伸ばしてくれる学校）
- 地域から信頼され、家庭や地域と協力して生徒を育てる学校
（ふるさと今田のために貢献しようとする意欲を持つ生徒を育てる学校）
- 教職員にとって、やりがいがあり、働きやすい学校
（教職員が互いに信頼し合い、それぞれの持ち味を生かしながら協働できる学校）

【目指す教職員像】 「楽しく 厳しく さわやかに」

- 情熱と愛情を持ち、率先垂範し、自らの信念を生徒に一生懸命語ることができる教職員
- 教育公務員としての使命と誇りを持ち、専門性を磨き、指導力や授業力を高めるために学び続けることができる教職員
- 軽快なフットワークで地域へ出向き、地域とともに教育を推進することができる教職員
- 新たな教育課題に挑戦する姿勢を持つ教職員
- ワークライフバランスを意識し、「働き方改革」に積極的に取り組むことができる教職員

【本年度の重点目標】

①組織的な生徒指導

いじめを絶対に許さないという確固たる方針のもと、すべての生徒が「一人の人間として大切にされている」という自己存在感を実感できるよう生徒の心に寄り添った組織的な生徒指導を進め、自分の力を存分に発揮し、いきいきと生活できる仲間づくりを進める。

（学年担任制、定期的なアンケート、教育相談、ノート指導、校内巡視等で、問題行動・不登校の未然防止・早期発見・早期対応を徹底するとともに生徒の相談できる力の育成に努める。また、保護者・関係機関と連携しながら情報モラル教育を計画的に推進する。）

②特別支援教育の充実

課題を持つ生徒に対して個に応じた適切な指導・支援ができる特別支援教育を充実する。

（個々の教育的ニーズを把握し、全職員で共通理解しながら共通実践を進める。）

③学力向上

ICT機器を有効活用し「見通しをもち、自ら課題を設定・解決する活動（主体的な学び）」「学び合う活動（対話的学び）」を充実させるとともに、個別最適な学びの実現に向けて教師主導から生徒中心の授業スタイルへの変換を図る。

④「生きる力」の育成

「表現力」「発信力」「コミュニケーション力」を高め、自ら考え、問題を解決していくことができる生徒を育成する。

⑤地域とともにある学校

コミュニティスクール事業を核に、職員・保護者・地域住民が丁寧にコミュニケーションをとりながら、地域とともにある今田中学校の教育を推進する。

（学校運営協議会が中心となり、地域の理解・協力が促進される仕組みをつくる。）

⑥業務改善

「生徒たちと向き合う時間」や「授業の質を高める時間」を十分確保できるよう働き方改革を推進し、さらに働きやすい職場づくりを進める。